



学びの夏!

# 出前講座実施中!

総合教育センターでは校内組織の活性化、学校等のニーズに応え、充実した研修を支援するため、出前講座を実施しています。

本年度は夏季休業中も含め、現在 **115 講座** の出前講座が予定されており、受講者数は **3,392 名** となっています。(7月25日現在)

夏季休業中以外にも受け付けています。学校だけでなく、市町(組合)教育委員会や教育研究会へのお出前講座も受け付けていますので、ぜひ御活用ください。

## 講座紹介 ~904 小学校外国語教育講座~

3年生、4年生の外国語活動が始まり、5年生、6年生には「読むこと」「書くこと」の学習も始まりました。

現在、それぞれの機関の御要望に応じた内容で出前講座を実施しています。具体的には、新学習指導要領の趣旨を確認するとともに、特に **5つの領域の目標について整理して考える** 時間を設けています。また、**アルファベットを用いた活動やスモールトークの充実を図るための表現活動**等、言語活動例を実際に体験する内容を盛り込んでいます。

さらに多くの先生方に出前講座を活用していただきたいと思います。



## 平成30年度出前講座一覧

901 小学校国語科教育講座	
902 小学校算数科教育講座	研修・支援部
903 小学校道徳教育講座	
904 小学校外国語教育講座	
905 小学校理科教育講座	
906 小学校音楽科教育講座	地域教育支援部
907 小学校図画工作科教育講座	
908 小学校家庭科教育講座	
909 中学校学力向上講座	研修・支援部
910 中学校道徳教育講座	
911 情報教育講座	
912 プログラミング教育講座	企画研究部
913 カリキュラム・マネジメント講座	
914 特別支援教育講座	特別支援教育部
915 教育相談講座	教育相談部

## 連載「カリキュラム・マネジメントのススメ」第2回

# 学級づくりに生かす「カリキュラム・マネジメント」

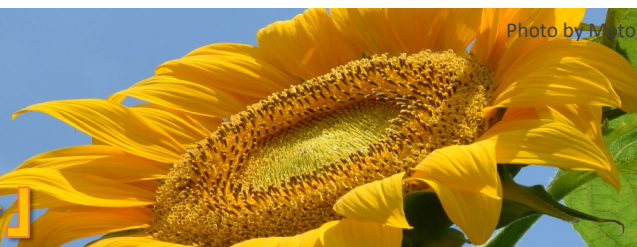


Photo by iStock

前回はカリキュラム・マネジメントの基本的なサイクルについて説明しましたが、今回のテーマは学級づくり! 1学期の振り返りと2学期の実践計画にカリキュラム・マネジメントを生かして、効果的な学級づくりを進める方法について紹介します。参考にして、2学期のより効果的な実践づくりに役立ててください。



### STEP1 1学期の成果と課題を振り返る

- ・学校や学年の教育目標がどの程度達成できたか、評価する。
- ・担任以外の様々な評価(教員、保護者、子どもなど)を活用する。
- ・アンケートなど、数値化できるデータを活用する。
- ・1学期の成果から学級の「強み」を見出し、2学期につなげる。

重要なのは学校全体や学年の視点を持つこと。そして、複数の目による多角的な評価と実践との接続です。次の取組に「つなげる」ための評価にしましょう。

### STEP2 2学期の目標を設定する

- ・学級の「強み」を課題の克服に生かせるような目標を考える。
- ・目標は2~3項目に限定して焦点化する。
- ・各月の重点活動をPICK UPし、月ごとのスモールステップを設定しておく。

目標設定で重要なのは「連続性」と「焦点化」です。1学期の成果を生かせるような目標設定で学級の成長を促し、焦点化で活動の教育効果を高めましょう。欲張りすぎは禁物です!

### STEP3 カリキュラムを計画する

- ・各月の重点活動をPICK UPし、それぞれに目標を設定する。
- ・目標設定と同時に評価方法や達成基準を設定しておく。
- ・それぞれの活動で活用できる「資源」(ヒト、モノ...)や関連する教科や領域を考える。

2学期は大きな活動が比較的多く実施されます。一つ一つの活動がイベントになってしまわないように、「何のためにやるのか」を明確にして事前にしっかりと目標を設定し、共通理解しましょう。



このように3つのステップで前回紹介したカリキュラム・マネジメントのサイクル、「現状の把握(振り返り)」「目標の設定」「カリキュラムの構築」に取り組むことができます。

今回は「カリキュラムの構築」に関して、カリキュラム・マネジメントの「3つの側面」について紹介します。

# 学びの直送便

学びの夏！今回の「学びの直送便」ではアクティブ・ラーニング、人権教育、スクールソーシャルワークに関する講座について紹介します。

## 「対話的な学び」につながるヒントが満載！

**No.858 実践アクティブ・ラーニング特別講座**  
－演習から学ぶ授業づくり－ (6/25)  
講師：産業能率大学 教授 小林昭文



産業能率大学の小林昭文教授をお招きし、アクティブ・ラーニングについて講義や演習を通して理解を深めました。

講義ではアクティブ・ラーニングの基本的な考え方について質疑応答を中心に理解を深めました。「**重要なのは学級づくり**」「**授業以外でもあらゆる活動を通して『主体的・対話的で深い学び』に取り組む**」など、実践的で非常に大切な視点について講義いただきました。

演習では、実際に小林先生が高等学校の物理の授業で実践されていた「説明⇒練習問題⇒確認テスト」の流れによる授業をロールプレイで体験しました。また、研究授業や研究協議の効果的な取り組み方、アクティブ・ラーニングが求められている歴史的背景や経緯についても学びました。

## 指導者の豊富な知識に基づいた授業づくり

**No.508 人権教育講座Ⅰ－同和問題を考える－ (6/26)**  
講師：公立鳥取環境大学 名誉教授  
京都教育大学 名誉教授 外川正明

外川正明教授の長期間に渡る研究やフィールドワークを基に「授業で子どもを変える」教材分析や授業づくりの在り方について詳しく講義いただきました。



その中で、指導者の正しい同和问题認識の必要性について話していただきました。**指導者が知識、情報、資料等を豊富に入手し、自分自身で読み込んで、指導内容に対して深く理解する。そして「何を考えさせるか」を明確にした授業こそが正しい同和问题認識を育む授業につながる**と述べておられました。

実践発表では京都府教育委員会が作成している人権学習資料集の執筆者である二人の先生から、それぞれの教材を活用した授業を中心に、「子どもたち個々の自尊感情を高める実践（小学校）」や「いじめ問題・性的マイノリティ（中学校）」について発表いただきました。

## 子どもたちを支え、つなぐSSWの役割

**No.856 スクールソーシャルワーク講座**  
－SSWの役割の理解とその実践－ (7/3)

講師：大阪府立大学 教授 山野則子  
京都府まなび・生活アドバイザー 山本千世子 スーパーバイザー

内閣府子どもの貧困対策に関する有識者会議委員等を務められる大阪府立大学の山野則子教授を講師に招き、スクールソーシャルワーカー（SSW）のスキルと役割について講義いただきました。

講義では、子どもを取り巻く様々な問題の背景にある事象（母親の孤立と不安、児童虐待等）と、効果的な支援を妨げる3つの課題「**貧困や孤立が見えないこと**」「**多様な機関で協働して検討する仕組みがないこと**」「**福祉・学校・地域を結ぶ仕事が不明確なこと**」が確認されました。

そして、これら乗り越える為にスクールソーシャルワーカーを活用した学校プラットフォームづくり、スクリーニング会議等、マクロからミクロまでの実践を学びました。



続いて、京都府まなび・生活アドバイザーのスーパーバイザーである山本千世子先生から、「まなび・生活アドバイザー」（京都市スクールソーシャルワーカー）の職務について講義いただきました。自己肯定感を高めるための小学校での支援の実際、個人と環境との不適合を解消させるための中・高等学校での支援の実際等、**子どもへの寄り添いを大切にしたスクールソーシャルマインド**を学ぶ講義でした。

また、事例に基づいて得られる情報からアセスメントし、多様な角度から支援の在り方をプランニングする演習から、社会資源の活用・関係機関との連携等の重要性を確認しました。

## 誰にとっても使いやすく、全ての子どもたちの学びを支える文房具を紹介！

総合教育センターでは、玄関ホールのガラスケースに、特別支援教育に関わる支援機器を展示しています。

誰にとっても使いやすくデザインされたコンパスや定規など、学習をサポートする文房具等を展示しており、右で紹介している展示品の他にも、読んでいるところを指し示す「カラーバールーペ」など、様々な支援に役立つものを紹介しています。

展示する物品は定期的に入れ換える予定です。総合教育センターに来られた際は、ぜひ御覧ください。

総合教育センターでは、この他にも障害のある児童生徒の生活や学習をサポートする支援機器の貸出を行っています。



詳細はこちら



### 展示中の支援機器の紹介

#### 《分度器》



持ちやすくデザインされ、360°測れる分度器です。

#### 《コンパス》



コンパス上部の持ち手が回転するため、持ち手を握って片手で簡単に円を描くことができます。